

# 令和2年度 みくま 事業報告書

## 1 総括

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症への対応に迫られた1年であったが、感染防止対策の徹底など、利用者や職員の努力により事業全体への影響は最小限にとどめることができたといえる。その中でも最も影響を受けたのは就労支援事業で、顧客である会社の休業やテレワークの増加などにより年度当初に弁当の販売個数の若干の減少があった。しかし、7月以降の回復とともに、清掃業務等他の事業で補い結果的に黒字収支で終えることができた。利用者の通所も若干の利用自粛はあったものの概ね安定しており、給付費収入も昨年度比で大幅な減少には至らなかった。施設会計、就労会計ともに目標に達しなかったが、コロナ禍の中でともに黒字収支を達成できたこと、また、一年を通して休まず開所でき、利用者に安定して就労の場の提供ができたことは何よりも良かったと感じている。

また、一方で、ケース記録、会議記録、自動車整備点検、行政手続きの不備などが法人に指摘されるなど、事業管理の杜撰さが明らかになった。ケース記録の記載などについては、内容の改善や職員への指導について毎年法人から指摘を受けているが改善されていない。令和3年度は、感染防止対策の徹底による利用者、職員の健康管理が最優先課題となるが、同時に事業管理の根本的な改善も大きな課題となる。

## 2 事業概要

- 1) 施設名 みくま
- 2) 事業種別 就労継続支援A型
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町2-1-12
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 17名
- 6) 利用現員 17名(令和3年3月31日現在)
- 7) 法人認可年月日 平成 14年 11月12日
- 8) 事業開始年月日 平成 25年 1月 1日
- 9) 職員 8名(令和3年3月31日現在)

管理者	1名	(兼務:常勤換算1.0)
サービス管理責任者	1名	(常勤換算1.0)
職業指導員	3名	(常勤換算2.3)
生活支援員	4名	(常勤換算1.5)

## 3 基本理念

一人ひとりの自己実現  
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築  
安心と希望の持てる生活

## 4 基本方針

- 1) 就労支援 弁当製造の業務を中心として「みくま」の従業員として能力が発揮できるように、利用者の作業能力や体調等に合わせて作業配分を行う。また、一般企業で働く為のステップアップとして、就労に向けた相談や就労活動に関して支援する。
- 2) 生活支援 利用者が安心、安定した生活ができる支援を行う。特に一般企業へのステップアップを希望している利用者に対しては、生活面等の課題を把握し就労に向けた生活全般の支援を関係機関と連携しながら行う。

## 5 実施事業(活動内容)

- 1) 就労支援
  - (1) 弁当製造・販売
  - (2) 清掃及び受注事業

2) 行事

(1) バスハイク (年1回実施)

6 日 課

開所・作業	7 : 30 ~ 12 : 10
昼礼	12 : 10 ~ 12 : 30
休憩	12 : 30 ~ 13 : 30
作業・記録等	13 : 30 ~ 17 : 30

7 重点課題・目標に対する評価

1) 活動

(1) 事業安定化のための取り組みを実施する。

①専任管理者の育成

- ア. 管理業務の年間の流れに従い計画的に業務を行う。
- イ. 課題を発見し、具体的な改善策を提案し実行する力を身につける。
- ウ. 業務全般において多角的な視点による適切な判断基準を身につける。
- エ. 全職員の業務スキルを把握し、個々に応じた助言、指導を行う力を身につける。

【成果と課題】

平成29年度から専任管理者の育成に取り組み業務全般に携わってきたが、行政への提出書類や基本的な書類整備など事業所としてやるべき事項を実施していないことが散見された。管理業務に対する姿勢を早急に改善する必要がある。

② 利用者数の確保

- ア. 関係機関訪問及び電話連絡年間計画表をもとに、ワークセンター夢の樹移行、定着支援、バウムと連携し、近隣の特別支援学校、就労支援センター、ハローワーク、特定相談支援事業所、就労継続支援B型事業所等へ利用者募集を行う。
- イ. 法人機関紙およびホームページへの掲載、チラシの配布、ポスター掲示などの広報活動を行う。

《利用者数増加目標数》

	雇用契約者	利用契約者	1日平均利用者数
令和元年度実績	11名	5名	12.0名
令和2年目標	12名	8名	13.6名
増員目標人数	1名	3名	1.6名

《利用者数増加による訓練等給付費収入及び当期資金収支差額目標額》

	訓練等給付費収入	サービス推進費	当期資金収支差額
令和元年度実績	1,710万円	499万円	15万円
令和2年度目標	2,440万円	390万円	190万円
増額	730万円	△109万円	175万円

【成果と課題】

《利用者数実績》

◆目標との比較◆

	雇用契約者	利用契約者	1日平均利用者数
令和2年度目標	12名	8名	13.6名
令和2年度実績	11名	6名	12.6名
増減	△1名	△2名	△1.0名

◆前年度比◆

	雇用契約者	利用契約者	1日平均利用者数
令和元年度実績	11名	5名	12.0名
令和2年度実績	11名	6名	12.6名
増減	増減なし	1名増	0.6名増

(見学者・実習者実績)

紹介先	見学者	実習者	採用
ほっと	0名	0名	1名(採用の1名は見学・実習を令和元年度に実施)
ハローワーク	0名	1名	2名(採用の2名は見学・実習を令和元年度に実施)
就労移行支援事業所	1名	1名	1名
相談支援センター	1名	0名	0名
市役所	1名	0名	0名
紹介者無し	1名	0名	0名
病院	1名	0名	0名
	5名	2名	4名

《利用者数増加による訓練等給付費収入及び施設会計の当期資金収支差額目標額》

	訓練等給付費収入	サービス推進費他	当期資金収支差額 (施設会計)
◆目標との比較◆			
令和2年度目標	2,440万円	390万円	190万円
令和2年度実績	2,310万円	730万円	400万円
増額	△130万円	340万円	210万円

	訓練等給付費収入	サービス推進費他	当期資金収支差額 (施設会計)
◆前年度比◆			
令和元年度実績	1,710万円	499万円	15万円
令和2年度実績	2,310万円	730万円	400万円
増額	600万円	231万円	385万円

関係機関への電話連絡、法人のHPへの掲載、チラシの配布及び掲示等の広報活動を行い、4名が新規に利用を開始したが、これまで利用していた利用者の内1名が法人内の就労継続支援B型へ異動したこともあり、1日平均利用者数は目標より1.0名不足の12.6名となった。訓練等給付費収入は目標値に達しなかったものの、サービス推進費や雇用助成金等の申請により当期資金収支差額は前年度比約385万円増の400万円となった。

③ 就労支援事業の強化

ア. 弁当製造事業の収益増加

- ・弁当配達ルートに沿って、会社等へチラシを配布し新規に顧客を増やす。
- ・法人内利用者、関係者、近隣等へ弁当のチラシを継続的に配布する。
- ・利用者が徒歩で配達できる顧客を増やす。
- ・おにぎりセット等弁当の委託販売先を増やすための営業活動（電話・チラシ配布）を行う。
- ・委託販売先の希望を聴取しサイドメニュー等の新メニューを開発する。
- ・新規販路開拓による1日販売個数の増加、おにぎりセットの販売、店頭販売を実施する。

	1日平均 日替弁当売上	1日平均 おにぎり	年間売上
令和元年度実績	198個	5個	2,282万円
令和2年度目標	209個	10個	2,400万円
増加分	9個	5個	130万円

(増加分内訳)	売上個数増加	95万円
	おにぎりセット販売	35万円

【成果と課題】

◆目標との比較◆	1日平均 日替弁当売上	1日平均 おにぎり	(弁当事業) 年間売上
令和2年度目標	209個	10個	2,400万円
令和2年度実績	206個	0個	2,230万円
目標との比較	△3個	△10個	△170万円

◆前年度比◆	1日平均 日替弁当売上	1日平均 おにぎり	(弁当事業) 年間売上
令和元年度実績	198個	5個	2,282万円
令和2年度実績	206個	0個	2,230万円
前年度との比較	8個	△5個	△52万円

令和2年度は、営業活動により、定期注文の新規の顧客が20件増加したが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う2度の緊急事態宣言があり、定期注文があった会社が一時的に休みになるなど販売数が減少したことに加え、令和元年度はすべて完売することができていた弁当を売れ残りにより廃棄することもあり、年間目標を約170万円、前年度比では52万円下回る結果となった。

イ. 新規作業への取り組み

不定期の作業を含め、作業時間や人員を有効に使える作業を積極的に取り入れる。

【成果と課題】

利用者の勤務シフトの見直しを行い、令和2年度より新規に法人内通所事業所の利用者支援の補助を開始した他、法人内事業所の建物内の清掃を1か所増やした（合計5か所となった）。また、単発の受注作業を2件受注した。

ウ. その他の作業を含めた収益増加（概算）

	目標作業収益（円）	令和元年度	差額
弁当製造事業	2,400万	2,270万	130万
清掃作業	449万	449万	0
緑化推進事業	130万	130万	0
名刺の作成作業	24万	22万	2万
その他受注作業等	10万	7万	3万
合計	3,013万	2,878万	135万

【成果と課題】

新規作業を開始したものの、弁当事業収入減少の影響により、就労支援事業全体では、年間収入目標に対し約137万円不足し、達成率は95.4%となった。しかし、利用実績が減少したことにより、当期資金収支差額は約58万円の黒字となった。

《概算》	目標作業収益（円）	令和2年度実績	差額	達成率
弁当製造事業	2,400万	2,230万	△170万	92.9%
清掃作業	449万	477万	28万	106.2%
緑化推進事業	130万	130万	0	100.0%
名刺の作成作業	24万	14万	△10万	58.3%
その他作業等	10万	25万	15万	250.0%
計	3,013万	2,876万	△137万	95.4%

## (2) 弁当製造事業の充実

内容充実のため、以下の取り組みを実施する。

- ①衛生管理の徹底－ マニュアルを遵守するとともに、異物混入防止を徹底する。
- ②メニューの多様化－ メインメニューおよび副菜の種類を増加する。
- ③弁当内容の充実－ 盛り付け方法および彩りを工夫し、購買意欲を促進する。

### 【成果と課題】

- ① 8月に弁当に髪の毛が混入する事故が1件発生した。再発防止策として、衛生管理マニュアルの確認と、衛生管理の大切さ等の講話を月1回実施した（白衣、エプロン、ヘアネット、帽子の正しい着用方法、粘着テープの使用方や、製造時における異物（食材包材の破片）混入防止方法の確認、弁当に蓋をする際のチェックポイントの確認等）。9月以降、異物混入に関する事故は防止できている。
- ② 新規メニューを7種類、副菜を5種類取り入れ販売した。
- ③ トッピングの工夫、カラーカップや仕切りを活用し、彩りを良くする工夫を続けた。また、食材の納入業者に相談し、安価で彩りの良い食材の仕入れが行えるように努めた。既存顧客から定期的に彩りの良さの評価をいただき、購買意欲の促進につながる効果があったと考えている。

## (3) 就労支援の充実

利用者の状況を把握し、みくまで安心して働くことができるように支援を行う。また、一般就労を希望する利用者には、作業を通して、業務の正確性や他者とのコミュニケーション能力が向上できるよう支援を行う。

- ①個別面談を実施し、個別支援計画の作成、評価、見直しを徹底し、心情面や作業面等様々な視点をもとに利用者の状況を把握し一貫した支援を継続的に行う。
- ②一般就労を目指す利用者には、希望する職種や働き方など具体的なイメージが持てるように、就労支援センターと連携し、就職活動の支援を行う。

### 【成果と課題】

- ① 全員と個別面談を実施し、作業目標の到達度や生活上の相談内容について聴き取りを行った。しかし、面談記録やケース記録また個別支援計画への反映が不十分となり利用者の情報が的確に職員に共有されなかった。また、支援計画の評価、見直しについても丁寧に実施出来ていなかった。職員一人ひとり、利用者と良好な関係を築き丁寧な支援が行えている場面も多いが、事業所としての支援方針が定まっていなかった。  
作業については目標を具体化させ指導を実施した。携わる作業工程や課題点などを明確にしたことにより、統一した作業指導ができるようになったことや、作業の到達度がわかりやすくなったことで、新しい作業工程へのステップアップへの意欲向上につながっていると感じている。また、作業中の利用者間の人間関係についての相談が多くあることから、その都度面談を実施し解決を図った。今年度は、1名の利用者が法人内の就労継続支援B型事業所に異動のため退所し、2名の利用者が家庭の事情と精神面の不調により退所した。今年度新規で利用を開始した3名の利用者を含む17名については、安定して通所できた。
- ② これまで一般就労を目指していた2名より、新型コロナウイルスの影響により就労に対する不安について相談があり就労支援センターと相談のうえ、具体的な就職活動は実施しなかった。2名とも作業能力やコミュニケーション能力は向上してきている。また、新たに2名から令和4年度までに一般就労を目指したいという希望があり、内1名については、令和3年度に就労に向けた業務体験を実施することとなった。内1名については体力をつけるために勤務時間数を増加した他、就職までのスケジュール等の確認を行った。

## 2) 人材育成

### (1) 副施設長

前述の通り、管理業務全般的に課題がある。

## (2) 全職員

- ①事業方針を把握した上、事業計画に従い業務に携わる。
- ②ケース記録等情報共有に必要な記録内容のスキルを向上し、個別支援計画に沿った支援を行う。
- ③利用者の心情理解、リスク管理、支援技術など基本的スキルを向上する。

### 【成果と課題】

指導不足もあるが、事業方針や事業計画に沿った業務となっているか等の検証が不十分であった。利用者支援においては、日々の関わりの中で、職員一人ひとり利用者の特性に応じた作業支援や、生活支援を行っていたが、前述の通り、個別支援計画の共有が不足しているうえ、利用者の状況や支援経過の記録が不足しており、支援計画に沿った支援の充実という点では不十分となった。

## 3) 経営管理

- (1) 毎月、月次試算報告を行い、財務状況について職員の理解を深め、経営的視点の共有を図ると共に、年度の収支予測を丁寧に行い、黒字収支に向けた目標を随時確認、または必要に応じて変更する。

### 【成果と課題】

職員会議で経営分析の結果を報告し、各職員の理解を進めた。しかし、課題の発見、その対策などを検討し、事業所主体で自発的に行動することは出来なかった。

## 8 その他の成果と課題

- 1) 職員及び利用者インフルエンザ予防接種を実施し、インフルエンザの罹患者はいなかった。

## 9 事故報告

- 1) 弁当製造事業における異物混入事故  
8月 店頭で販売した日替わり弁当に、髪の毛が混入する事故が1件発生したが、健康状態に問題はなかった。

## 9 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間  
(2) 開所時間  
令和2年4月1日～令和3年3月31日  
午前7時30分～午後17時30分  
(3) 年間延開所日数 243日間  
(4) 平均活動時間 5.7時間

## 10 利用状況

- 1) 利用者延人員 3,072名
- 2) 1日平均利用人員 12.6名
- 3) 年間実習人員 4名
- 4) 就労者延人数 0名
- 5) 私事都合退所者延人数 3名

## 11 利用者状況 (令和3年3月31日現在)

- 1) 年齢  
20歳未満 0名  
20歳以上30歳未満 2名  
30歳以上40歳未満 4名  
40歳以上50歳未満 10名

50歳以上60歳未満				0名
60歳以上70歳未満				1名
2) 障害の状況				
愛の手帳4度				6名
愛の手帳3度				1名
精神保健福祉手帳3級				4名 (うち1名は身体障害者手帳と重複して所持)
精神保健福祉手帳2級				6名
身体障害者手帳 3級				1名
3) 通所手段				
交通機関利用	6名	徒歩等利用	11名	
4) 居住状況				
管内居住	11名	管外居住		6名
5) 性別				
男性	9名	女性		8名

## 1.2 利用者工賃

### 1) 雇用者一平均工賃

月額： 87,257円

時給： 1,013円 (参考) 東京都最低賃金

### 2) 利用者一平均工賃

月額： 27,719円

時給： 400円

## 1.3 環境の整備

施設内外の美化と利用者周辺の整理整頓につとめ、危険の防止に努めた。

## 1.4 防災

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に計画していた防災訓練についてはコロナウィルス感染拡大防止のため中止とした。